

新エネルギーの利用

愛知県議 武豊町 メガソーラーで意見交換

公明党愛知県議団 (鬼頭英一団長) はこのほど、太陽光などの新エネルギーの活用推進に向けて、昨年10月に稼働した中部地域では最大規模の太陽光発電施設「メガソーラーたけとよ」(中部電力||同県武豊町)などを視察し、関係者と意見

交換した。このメガソーラーは、約14畝(東京ドーム約3個分)の敷地に太陽光パネルが約3万9000枚も並ぶ施設。想定年間発電量は、730万キロワットで一般家庭約2000世帯分の年間消費量に相当す



メガソーラー施設を視察する
党愛知県議団(右側)

る。また、年間の二酸化炭素削減量は一般家庭の約700戸分(約3400トン)に匹敵し、低炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギーとして効果が期待されている。

一行は、担当者から再生可能エネルギーについて説明を受けた後、メガソーラーを視察した。

また浜岡原子力発電所の停止を受けて、昨年7月に稼働を再開した武豊火力発電所2号機を訪れ、稼働状況を見て回った。

関係者との意見交換の席上、鬼頭団長らは、「災害に備えて、安定した電力の供給を行うべきだ」と指摘するとともに、「県議団としても新エネルギーの推進に全力を尽くす」と語った。